

天文学とプラネタリウム

第117回



今月のお題

アイソン彗星顛末記

消滅してしまったアイソン彗星。まさかの出来事に私たちもどたばたでしたが、今回はその顛末記です。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

なにか、たちの悪い冗談ではないかしらん？
忘れもしない11月29日の朝、ニュースサイトに踊る、「アイソン彗星が消滅」の文字。六本木ヒルズでのアイソン彗星観望会もいよいよ来週末に控え、今朝はアイソン彗星も近日点で折り返し、大彗星に化けてくれるはず…と期待して目覚めてみれば、最初に飛び込んできたのはこのショッキングな情報です。眠い目をこすりながらあわててネットで情報を探してみると、どうやら文字通り、アイソン彗星は塵と化してしまった模様。夜通し近日点通過をチェックしていた人たちは、さぞびっくりしたに違いないと思いつつ、関係各所との調整を思っちょっとうんざりしました。とりあえず一緒に彗星観望会の企画をしている森ビルの担当者さんの携帯を鳴らします。おお、動揺している。そりゃ、そうだよな。今後の方針を立てるために情報収集をすることを伝えて、電話を切ります。

アイソン彗星は本当にもう見えないのか、専門家の見立てはどうかを急いで関係各所に問い合わせます。まだ見るんじゃないかと希望的観測がちらほらあるものの、客観的に判断

すれば、簡単な望遠鏡程度で見えるレベルには絶対にならないと判断。アイソン彗星観望会としての実施は諦めることにしました。しかし、転んでもただで起きてはつまらない。災い転じて福をなす、としなければアイソン彗星にも申し訳が立たぬということで、さてどうするか。幸いなことに、火星、水星、土星といった惑星たちや、明るい冬の星々に加え、予想外に明るくなったラブジョイ彗星も見えそうです。関係者と協議した結果、アイソン彗星観望会を取りやめ、ラブジョイ彗星と冬の星空を楽しむ会として再設定することにしたのでした。

ラブジョイ彗星と冬の星空を楽しむ会

12月6-8日の3日間にわたって開催予定だった彗星観望会には、各日の定員が300名のところに2,000名以上の申込があり、注目度の高さを感じていました。しかし、アイソン彗星が無くなってしまったいま、果たして午前4時からの観望会に人が来てくれるのか…開催日までドキドキしながら過ごしたのですが、それは杞憂でした。天候の関係で2日間しか開催できませ

大宇宙ふんどし (仮称) 開発中…!



早朝4時、ラブジョイ彗星観望会の様子。

んでしたが、各日ともに約150名の方が参加して下さったのです。空は決して快晴ではなかったのですが、晴れ間に見える冬の星座と一緒に探したり、富士フィルムさんからお借りした大型双眼望遠鏡でラブジョイ彗星を眺めたりと、みな楽しんでくれたように思います。

今回は、主役が見えなくなってしまうという大ピンチがありましたが、一緒に企画を立てていた森ビルさんや、天プラの面々の臨機応変な対応のおかげで、アイソン彗星のいなくなった中でも多くの方に早朝の東京の星空を楽しんでいただくことが出来ました。次の大彗星はいつやってくるかわかりませんが、その時にも今回の経験を活かして、またユニークなイベントを仕掛けてみたいと思います。